

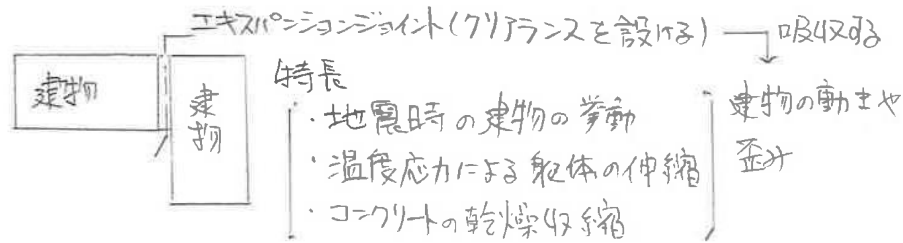
平成28年No.30 総合的構造計画

1. 建築物の耐火設計 → 火災終了まで建築物を崩壊、倒壊させない事を目指す
2. 積載荷重や部材断面設計とライフサイクルコスト → 適度に余裕をみて設計はライフサイクルコストの節減に結びつく
3. 温度応力・コンクリートの乾燥収縮とエキスパンションジョイント → 地震によるゆがみだけでなく、温度応力・コンクリートの乾燥収縮に対しても効果がある
4. 中間層免震に用いる免震装置の耐火被覆 → 柱の一部と見なされるため耐火被覆が必要

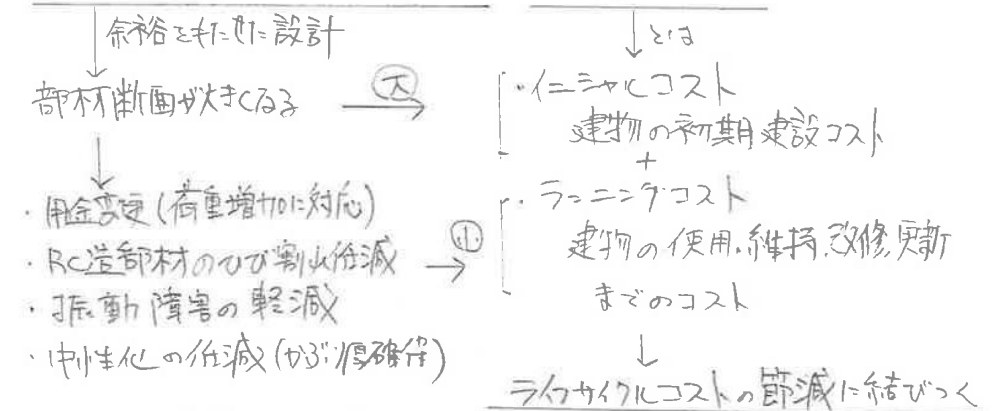
○ 建築物の耐火設計

- 火災時に短時間で建物や倒壊すると避難の安全性が確保できない、消火活動が困難になるなど
- 通常の火災が終了するまでの間、建物の倒壊、延焼を防止する必要がある
- どの程度の部材が「出火から一定時間以上倒壊を防止するための基準に適合しなければならぬ」

○ 温度応力・コンクリートの乾燥収縮とエキスパンションジョイント



○ 積載荷重や部材断面設計とライフサイクルコスト



○ 中間層免震に用いる免震装置の耐火被覆

